

(補助資料1) 質問紙による意識調査

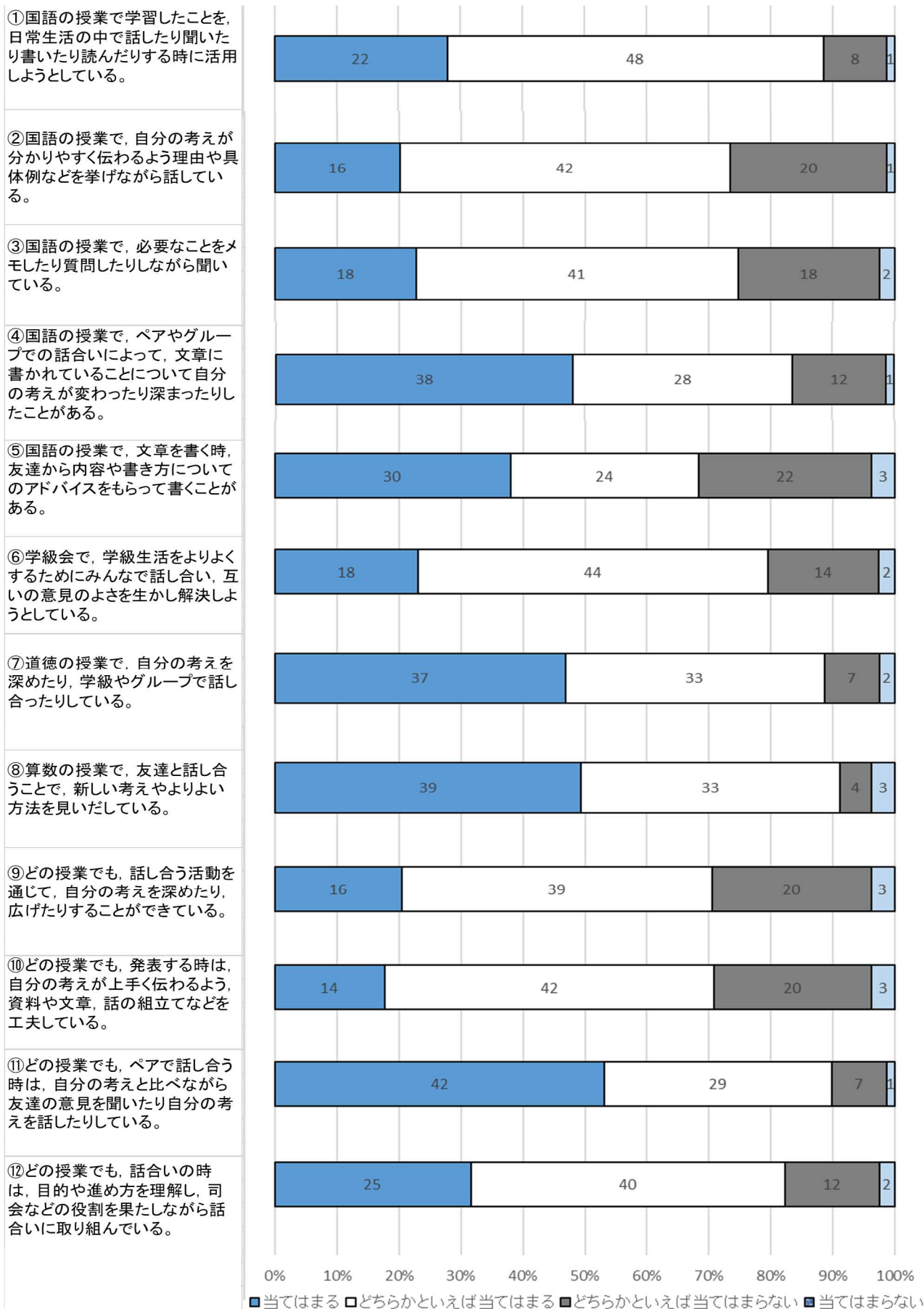


図1 アンケートによる意識調査の結果

(補助資料 2) 実態把握における発話記録

小学 5 年「世界で一番やかましい音」の 4 時間目の授業を 3 台のビデオカメラで撮影した。本時は「時」,「場所」,「登場人物」,「出来事」,「大きく変わったこと」を全体で押さえた後で、物語全体を「三部構成」(始め・中・終わり)に分ける場面である。「始め」は一段落から始まることを確認した。2 分で 3 つに分けるよう指示があった。以下の話し合う場面は授業が始まってから 3 4 分～3 7 分後に行われた。

C 1 C 2 がペア、C 3 C 4 がペアであるが、席が前後の 4 人で話し合っていた。

教師	(全体指示) がんばって 3 つに分けて、お話を。昨日の場面分けした番号を使って。理由も説明できたらできるようにね。最後は必ず⑩だね。①から始まって⑩で終わりだね。中がどこからどこまでか。			
教師	C 1	C 2	C 3	C 4
(2 分後)では隣の人と相談して。(全体)	まだ書いてない。		①から②はあれでしょ。「ところ」だから切ってるじゃん。	また書くのか
違った場合はなんでそうなるのか聞いて。(全体)	俺, ①から②			
	①から②, ③から⑨, ⑩から⑩		①から②, ③から⑩, C 1 は?	
	俺, それにした。	①から②, ③から⑤	俺もそれかもしれない。俺もうすうす。	
(C1C2 に)一緒?	ううん。		じゃあ俺もそうしょ。	
じゃあなんでそうなのか聞いて?	なんで?	なんで?		
言えるって。		私, 言えるよ。		
	えーだって(教科書を指しながら)だって誕生日でしょ。	日がたち (教科書を指しながら) これから「日がたち」だから。		
	で, (教科書をめくりながら) ⑨だろ。(後ろを向いて)俺は③から⑨にした。お前は?お前(C4)も C 2 と一緒かよ。(ノートのをのぞき込みながら)	うん。		
	俺は C 3 の味方だ。	うん, 一緒。だって「日がたち」	えーでもさ, ⑩はあれだよ。	
	「さて」だよ。「日がたち」って全然違うじゃん。	じゃあ私 C 4。	えーでもあれだよ(教科書をめくりながら)だって, あれだよ, 「さて」だもん。	
		日たってるじゃん。	それまだ続いちゃってんじゃない。	
			日はたっていないんだ, まだ。	

図 2-1 小学 5 年国語科「世界で一番やかましい音」発話記録(抜粋)

児童が話し合っていた時間は、3 分間である。その後、全体で共有し、解決の場面となる。その際は、C 3 は挙手して自分の考えを発表し、全体で考えが 3 つに分かれた。その 3 つの中のどれが自分の考えと同じかを教師が聞いた所、どれにも当てはまらなかった C 2 と C 4 は反応せず。C 1 は C 3 を同じ②～⑨の意見に挙手した。

C 5	C 6
書いてないの?書いた?(ノートのをのぞき込みながら)絶対違う。三部構成。私は始めは①。	
うちと一緒に。	じゃあ, 俺がちゃんとやってやるわ。まずは(教科書をめくりながら)①②から⑩

図 2-2 小学 5 年国語科「世界で一番やかましい音」発話記録(抜粋)

もう一ペアの様子も観察した。このペアの話合いの時間は 1 分間である。この後、このペアは話し合うことはなかった。

（補助資料3）話し合う方向性の分類

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編と「ペア&グループ学習を取り入れた小学校国語科『学び合い』の授業づくり」（細川太輔・北川雅浩）を参考に、話し合いの方向性の違いから分類表を作成した。

表1 話し合う方向性の分類

分類	① 交流	② まとめる (探求的)	② 問題解決 (創造的)	③ 広げる (拡散・批判的)
方向性	話題に沿って話す 話をつなぐ 考えをもつ 相手の話を聞く	自分の考えをまとめる 一つの考えにまとめる	問題を発見する 解決策を見出す	異なる意見に触れる 新たな見方を得る
思考	例) 質問, 復唱, 共感, 感想, つけ足し	例) 比較, 分類, 関係付け, 順序立て, 共通点, 相違点, 合意形成, 理由付け, 整理	例) 原因, 利点, 問題点, 提案, 類推	例) 討論, 反論, 話し合い, 友達の意見を聞いた考え

②③④ともに共有であり、これら4つの分類を学習課題解決に向けて、適宜、学習過程の中に取り入れ単元の中で段階的に配置することで、話し合う活動自体の質も高めることとする。

表2 参考とした小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編の抜粋

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
話し合うこと	話し合いの進め方の検討	オ 互いの話に関心をもち、 相手の発言を受けて話をつなぐこと 。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の 共通点や相違点に着目して、考えをまとめること 。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、 考えを広げたりまとめたりすること 。
	考えの形成			
	共有			

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編の「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」の一部抜粋である。「相手の発言を受けて話をつなぐこと」を「交流」とし、指摘や確認などを含むとする。「考えをまとめること」を「まとめる」とし、収斂や練り合いなどを含み、自分の中で自分の考えをまとめることと、グループや全体といった複数の意見をまとめることとする。「考えを広げたり」は「広げる」で、拡散や批判的思考により、自分の考えが広がる話し合う活動とする。第5学年及び第6学年の「考えを（広げたり）まとめたり」を「問題解決」とし、答えが1つではないことなどに対し、自分たちで解決策を創造的に生み出す話し合う活動とする。

これらは、はっきり区切れる場合もあるが、重なり合ったり関連したりする場合がある。また、分類の仕方も様々あるため、本研究においての分類表とする。

分類表の①から④に向けて、話し合う程度は難易度が上がるが、国語科で話し合うこと自体を学んだ後は、①から④までは螺旋的・反復的に各領域の学習の中で取り入れていく。児童に様々な話し合いを経験させ、方向性や進め方を認識させながら、話し合う活動の質を高めていく。

(補助資料4) 授業実践事例

単元名 それぞれの立場や役割のスペシャリストになろう
第5学年 A話すこと・聞くこと

1 単元の目標

- (1) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕
- (2) 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」領域における話し合う活動

本研究においては、話し合う活動を【交流】【まとめる】【問題解決】【広げる】の4つに分類した。【交流】【まとめる】【問題解決】の3つは、1～4年生までの「A話すこと・聞くこと」の指導事項を基に分類した。【広げる】について、本単元で扱う指導事項である。

本単元においては、2つのグループに論題について賛成又は反対のどちらかの立場を割り当て、事例や数値を根拠にして自分たちの考えを主張させるとともに、別の2つのグループに司会係と審判係を割り当て、討論を円滑に進めたり、主張の内容や構成の妥当性を判断したりさせる。これらを通して、話し合いの仕方についての理解を深めるとともに、考えを広げていく。

【交流】【まとめる】【問題解決】の3つに分類した話し合う活動を取り入れていく。具体は以下の通りである。話し合う形態は、ペア、グループ、全体とした。かつこの中の数字は、5時間扱いの中で何時間目の授業であるかを示している。

【交流】では、討論の方向性に慣れさせるために、身近な事柄に関する論題に対してペアで異なる立場から意見を伝え合った(1, 2/5)。

【まとめる】では、討論会やその進め方に理解を深め、客観的かつ具体的に討論会について考えさせるために、討論会のモデルを提示した。それを見ながら、全体で意見を出し合い、討論会の在り方についてまとめた(1/5)。

【問題解決】では、賛成・反対という立場、司会や審判という役割に分かれ、目指す姿と必要な準備について確認し合い、討論会の実施に向けてすべきことを焦点化した(2/5)。それぞれの立場や役割への理解を深めるために、前回の討論会の反省から改善策について話し合ってまとめ、次時の討論会につなげた(4/5)。

【広げる】は、本単元で新たに学ぶ話し合う方向性である。討論会という話し合う活動自体を学ぶことが本単元の目的であり、討論会の話し合う方向性が【広げる】である。よって、討論会を経験することで【広げる】話し合う活動を行ったこととした(3, 5/5)。

3 話し合う活動を充実させるための工夫

(1) 単元の構成と学習過程の工夫

表3 平成29年度実践時と本実践における単元の構成の比較

時	平成29年度実践時における学習活動	本実践における学習活動
1	互いの主張とその理由を明確にしながら、計画的に討論をするという学習課題を確かめる。	互いの主張とその理由を明確にしながら、計画的に討論をするという単元の目標を確かめ、見通しを持つ。【交流】
2	自分の立場を決め、論題に対する理由をメモにまとめ、意見文を書く。	それぞれの立場や役割に分かれ、ワークシートを使って討論の準備を行う。【まとめる】
3	グループで主張をメモしたり予想カードに質問を考えたりし、討論の準備を行う。	立場や役割に分かれ、実際に討論会を行う。【広げる】

4	司会や記録係、審判などの役割について理解し、討論の準備を行う。	前時の討論会の反省から目標とする討論会にするための改善策を練り、次時の討論会の準備を行う。【問題解決】
5	立場や役割に分かれ、実際に討論会を行う。	第2時と同じ役割で、異なる論題について、討論会を行う。取扱説明書を作成する。【広げる】

討論という話合いの方向性を理解し、計画的に討論会ができるように、討論に関する知識及び技能の習得を行った。それらを活用し、思考力、判断力、表現力等を育成する討論会を繰り返して行う単元の構成を工夫した。討論後には、その都度まとめたり振り返ったりする時間を設け、活用と改善を繰り返すようにした。

(2) 学習課題・発問の工夫

討論という話合いの在り方について話し合う活動を挿入した。4年生の学習を活用し、立場や役割についての取扱説明書を作成した。

(3) 話し合うために必要な言葉の提示

メモの取り方を提示し、復習した。理由の言い方を複数提示し、討論において使えるように練習した。疑問詞を紹介し、質問の仕方について確認した。

4 単元の構成

第一次 討論という話合いの方向性を理解し、討論会の流れのイメージを掴む（第1時）。

- 一部の児童にモデルとなって討論会をしてもらい、立場や役割について知り、討論会の流れのイメージを掴ませる（第1時）。

第二次 討論会の準備、討論会の実践と改善を繰り返し、討論会におけるそれぞれの立場や役割を理解する（第2～5時）。

- それぞれの立場や役割の目指す姿と討論会を行うために必要な準備を焦点化させた上で、グループで話し合わせる（第2時）
- それぞれの立場や役割について理解を深めるために、討論会を行わせる（第3時）。
- 前時の討論会の反省から、立場や役割における改善策をそれぞれのグループで話し合い、まとめさせる（第4時）。
- 前時に出了反省やまとめた改善策を生かしながら、立場や役割は変えずに再度討論会を行わせる。それぞれの立場や役割についての取扱説明書を作成させる（第5時）。

5 中心となる本時の授業計画（第4時）

表4 中心となる本時の学習活動と教師の支援及び指導上の留意点

	学習活動	教師の支援及び指導上の留意点
導入	○それぞれの立場や役割のスペシャリストになろう、という学習課題を把握する。	・前回と同じ立場や役割をもう1度経験させる。
展開	○前時の討論会で上手くいかなかったことをグループで出し合い、立場や役割ごとに改善策を話し合ってまとめる。 ○考えた改善策をもとに、次時の討論会の準備をグループで行う。	・それぞれの立場や役割を深く理解させるために、前時の討論会の様子や発話記録を提示し、改善策について話し合わせる。 ・立場や役割は変えずに、論題は変えて討論会を行うようにする。
終末	○まとめた改善策から、次時の討論会の自分の目標を決める。	・次時の討論会への見通しを持ち、自分の役割を焦点化させるために、言語化させる。

6 授業実践①の発話記録 (補助資料5)

下の図3は、改善策を練る前後の討論会での発話記録である。取り上げたグループは論題の反対の立場のグループでメンバー構成も変わらない。グループは5人編成とした。机は各立場や役割ごとに横に一直列で並べた。1回目の論題は「国語より算数の学習の方が大切である」とし、2回目の論題は「コンビニの24時間営業は必要である。」とした。

	1回目の討論会	改善策を練った2回目の討論会
賛成グループの主張を受けた反対グループの主張の場面	司会に振られても数秒無言 (この先はグループ内で小声による会話) C1「C2, 言って。私じゃない。」 C2「まだ書いてない。」 C1「書かなくていいんだよ。」 C2「終わらない。」 C1「終わらないじゃない。」 司会「頭で考えて言ってもいいんじゃない？」 C1「これ(ノートを指し)読めばいい？」 C3「分からないよ。」 C1「なんて言えばいいの？」 ここまでで2分9秒 (教師が一旦止め、相談する時間を設けた。相談中は教師がグループの中に入り一緒にまとめた。) C2「反対する理由は3つあります。C1さんお願いします。」 C1「訳は人との関わりやマナー, ルール, 日本語, 漢字, 色々なことを習うからです。」 C4「日本語を知らずに生きていけば, 家族に迷惑がかかるからです。」 C5「国語の方が色々なことを書いていて, 音読もできるからです。」	C1「コンビニを24時間営業するのは反対です。わけは3つあります。1つ目は24時間やっていると, 働くのがきつくて辞めてしまう人が多いからです。2つ目はマイナビニュースの『コンビニは24時間営業を止めるべきか』というアンケートの結果, やめた方がよいと思うのは69.1%で, やめない方がよいと思うのが30.9%で反対の方が多いことが分かります。3つ目は夜にあまりお客さんが来ないので電気代の無駄になるという理由から, 私たちは反対を選びました。」 ここまでで1分
賛成グループへの質問	C1「算数が大切というのも分かりますが, 日本語を話したり字を書いたりするのはどうやって習うんですか。」 ここで時間になり終了。	C2「コンビニの店員さんがいなくなったらどうしたらいいですか。」 (答えとして, 交代制, ポスターで募集, ロボットの活用など出て, ロボットのことにしての質問になり, 話がずれていったため, 教師が止めた。)
賛成グループからの質問		(Q「夜遅くまで働いている人は, 食事したい時, 24時間営業しているのってコンビニくらいしかないから, そういう時はどうするんですか。」) C3「朝や昼に買っておけばよいです。」 (Q「『働く人がきつい』と言っていました, 夜働く人は朝休んでいるからきつくはないのではないのでしょうか。」) C1「きついかきつくはないかは分かりませんが, アンケートの結果に働くのがきつくて辞める人が多いと書いてありました。」
最後の主張		C4「確かにコンビニの光が無いと見えなくて危ないということは納得ですが, 街灯を付けたりして対応すればいいのではないのでしょうか。」

図3 小学5年国語科「それぞれの立場や役割のスペシャリストになろう」発話記録(抜粋)

(補助資料6) 授業実践事例

単元名 資料を生かしてポスターを書こう
第5学年 B書くこと

1 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕
- (2) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」領域における話し合う活動

話し合う活動の【交流】【まとめる】【問題解決】の3つは1～4年生までの話し合うことの既習事項から分類し、4つ目の【広げる】は7月の「立場を決めて討論しよう」で学習した内容である。具体は以下の通りである。話し合う形態はペア、グループ、全体とした。かつこの中の数字は、5時間扱いの中で何時間目の授業であるかを示している

【交流】では、多くの友達と話して様々な意見に触れ、友達の考えを聞くことで全ての児童が自分の考えを持てるようにした(1/5)。ポスターを見せる相手(全校児童か保護者)が異なる友達のポスターを見合い、資料の活用の仕方についてよい所を伝え合った(5/5)。

【まとめる】では、インフルエンザの予防に関する資料を選び、ポスターに提示する位置を決め、それらの理由をグループの友達に説明した。説明し合った後は、自分の考えを吟味し見直す時間を設け、自分の考えを確かにした(3/5)。同じ相手(全校児童か保護者)に書いているペアで、作成しているポスターの資料の活用の仕方について助言し合うことで、文章を整えられるようにした(4/5)。

【問題解決】では、写真と文章に合った見出しを考え、考えた見出しをペアで確認後、全体で共有した。見出しは提示された観点から吟味した(2/5)。互いのポスターにおける資料の活用の仕方について認め伝え合ったことで、自分の文章のよさや課題について実感できるようにした(5/5)。

【広げる】では、4枚の資料から3枚選び、提示する順番を考え、どのような構成にするか伝え合った。同じ構成を考えた友達と話し合うことで、考えを確認したり理由を深めたりできた。異なる構成を考えた友達と話し合うことで、色々な構成を考えられることを理解した(1/5)。

3 話し合う活動を充実させるための工夫

(1) 単元の構成と学習過程の工夫

書くために有効かつ児童にとって必要性のある話し合う活動を配置し、書くことにおいても話し合う活動が有効であることを児童に実感させられる学習過程を組み立てた。ねらいを達成するために有効であると考えた言語活動を設定し、教科書教材で資料の読解と活用の仕方を押さえ、その後の言語活動で活用していけるような単元の構成とした。2つの教材を取り扱うことから、単元の構成を段階的につなげ、反復的に繰り返しながら学習していけるようにした。

(2) 学習課題・発問の工夫

学校生活における問題解決をテーマとしたポスター作成における思考力、判断力、表現力等を意識させ、それらを身に付けていくことができるような課題を設定した。

(3) 話し合うために必要な言葉の提示

順序を表す言葉、資料を提示する際に使う言葉、考えをまとめる際に使う思考を表す言葉を教科書から見付けて確認した。相手の考えを引き出す質問の仕方、推敲や共有の際に使う話型を提示した。

4 単元の構成

第一次 単元の見通しを持ち、資料を活用したポスターの書き方を理解する（第1～2時）。

- ・ポスター作りに必要な資料の読み取り方を理解させる（第1時）。
- ・資料を活用した文章の書き方やポスターの構成から、情報と情報との関係を理解させる（第2時）。

第二次 インフルエンザ予防を呼びかけるポスターの書き表し方を工夫する（第3～4時）。

- ・ 自分の考えが伝わる資料を選び、ポスターの構成を考えさせる（第3時）。
- ・ 既習の学習を生かし、インフルエンザの予防を呼びかけるポスターを書かせる（第4時）。

第三次 書いたポスターを見合い、自分の文章のよさを見付ける（第5時）。

- ・ 友達と話し合うことで、自分の文章のよさや課題に気付き、さらによりよいポスターを書こうという意欲を高めさせる（第5時）。

5 中心となる本時の授業計画（第3時）

表5 中心となる本時の学習活動と教師の支援及び指導上の留意点

	学習活動	教師の支援及び指導上の留意点
導入	○インフルエンザの予防を呼びかけるポスターを作成するために資料を読み取り、情報を選び、構成を考える、という学習課題を理解する。	・ポスターの見本を提示し、予防を呼びかけるポスターの作成という目的を確認し、見通しを持たせる。 ・ポスターの読み手を全校児童、または、保護者とし、読み手を意識させる。
展開	○ポスターに貼る非言語資料から情報を取り出す。 ○自分の考えに合った資料を「オーダーシート」を使い、2種類選び資料を貼り付ける位置も決める。 ○「オーダーシート」に記入したことについて話し合い、必要に応じて「オーダーシート」を書き直す。	・資料の情報を全員で確認し、共有させる。 ・選んだ資料とそれを提示する位置について、決定した理由を一文で書かせる。 ・話し合いの進め方については、「オーダーシート」の裏面を参照にさせる。友達と話し合うことで、資料の効果や適切な構成に気付き、自分の考えを確かにできるよう再考の時間を設ける。
終末	○資料を選ぶ際の要点をまとめる。	・読み手（対象）、構成に着目させ、次時の書くことにつなげられるようにする。

(補助資料 7) オーダーシート

オーダーシート		
名前()		
目的 []に向けての「インフルエンザの予防を呼びかける」ポスターを作ります。 ↓ そのために・・・		
提示する位置	選んだ資料の番号	選んだ理由(一文で説明)
A		
B		

の資料をオーダー(注文)します。

さあ、ラストオーダーの時間です。

(友達と話し合って、考えを変えることも、自信を持って最初の考えにすることもよいことです。)

提示する位置	選んだ資料の番号	最終決定した理由
A		
B		

且つ相手のことを考えて選んだ資料を活用し、次回からポスター作りに取り組んでいきましょう。

図4 小学5年国語科「資料を生かしてポスターを書こう」オーダーシート

6 授業実践②の発話記録（補助資料 8）

インフルエンザの予防を呼びかけるための非言語資料を 7 種類から 2 種類を選び、その理由とポスターに貼り付ける位置をオーダーシートに記入した。オーダーシートに記入した選んだ資料と考えた構成が対象や目的に合っているかをグループの友達に説明することで、資料を活用して書くという目的につなげる。また、多様な考えを受け止め、友達の考えと比べながら、共通点や相違点などについて話し合うことで、自分の考えを確かにする場面である。時間は 5 分間である。

段階	保護者対象にポスターを作成するグループ
説明	C 4 「C 1, どれをえらんだの？」 C 1 「俺は②と③で、選んだ理由は、利府三小の全校児童が 3 9 8 人に対して、欠席した人数多いから、③の資料でこまめに手洗いうがいをする。」 C 4 「ああ、分かった。俺はね、②と①なの。A が②で B が①。選んだ理由は②は休んだ人数が分かるから。①は②の休んだ人が何月に多いか分かるから。」 C 3 「僕は、A ③で B ②にした。」 C 4 「C 1 と逆だね。」 C 3 「A ③は手洗いうがいが良いのが分かることで、B ②はうがい手洗いをしないと欠席が増えていること。」 C 2 「私はね、A が②で B が⑤」 C 4 C 3 「⑤？」（資料を指さす） C 2 「②は 1 年間でこんなに多くの人がインフルエンザにかかっていることが分かって、⑤は家族がかかっていなくても自分がかかっていなくても、人がたくさんいるところに行くと感染するから。」
話し合い	オーダーシートの裏面を開き C 4 「活用する資料は同じですか？ちがいますか？資料、全員②だろ？あとはバラバラか。」 C 3 「じゃあ②は確実？」 C 4 「うん、確実。」 C 3 「確実か。」 C 4 「同じ資料を選んだり同じ位置に提示したりする人の理由はどうですか？おたがいの理由を聞き合ってみよう。え、なんの？」 C 3 「まあ位置を選んだ理由。」 C 4 「位置の理由？」 C 3 「なんでこんな位置にしたかの理由。」 C 4 C 1 「分かん。」（20 秒間無言） T 「なんで A に②をしたのか、そういうこと。」（C 4 のオーダーシートを指さしながら） C 4 「先にまず休んだ人の人数で、B を①にしたのは休んだ人がどの月で休んだかが分かるから。」 C 3 「休んだ人が多いとまあ、手洗いうがいは大切で、手洗いうがいはちゃんとしてうってこと。」 C 1 「次は、選んだ資料や提示する位置がちがう人にはその理由を聞いてみよう。最初は②。」 C 4 「俺も②。」 C 2 「私も。」 C 3 「僕は③。」 C 1 「なんで③？」 C 4 「最初、みんな②なのになんで③？教えて。」 C 3 「最初にうがい手洗いをすると良いと分かるから。」 C 3 は言った後、消そうとするが、C 4 が止めた。

図 5 小学 5 年国語科「資料を生かしてポスター書こう」発話記録（抜粋）

(補助資料9) 授業実践事例

単元名 表現の工夫を考えよう

第5学年 C読むこと

1 単元の見目

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能]
- (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の工夫を考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 [学びに向かう力、人間性等]

2 「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」領域における話し合う活動

話し合う活動を【交流】【まとめる】【問題解決】【広げる】の4つに分類した。話し合う活動の具体は以下の通りである。話し合う形態は、ペア、グループ、全体とした。かっこの中の数字は、9時間扱いの中で何時間目の授業であるかを示している。

【交流】では、多くの友達と話すことで表現の工夫についての様々な意見に触れるようにした(1/9)。宮沢賢治の「どんぐりと山猫」を途中まで読み、一郎が下した判決内容について、想像させ、ペアで話し合わせた後に全体で共有した(9/9)。

【まとめる】では、型を提示しペアで話すことで、戸の言葉の意味について自分の考えをまとめられるようにした(2/9)。「つまり」という言葉を使って、紳士の変化についてペアでの確認後、全体で一般化した(5/9)。解説文にまとめる内容について、ペアで説明し合うことで、自分が書く内容を明確にし、整理させた(7/9)。

【問題解決】では、ペアで話し合った後、全体で叙述から読み取ったことをつなぎ合わせることで、紳士の性格や考え方を捉えるようにした(4/9)。「なぜ、紳士たちの前に山猫軒が現れたのか。」と「なぜ、紳士たちは戸の言葉の意味を間違えて解釈していったのか。」という答えが教科書に載っていない発問についてグループで話し合うことで、人物像の把握が物語の読みを広げたり深めたりすることに気付かせた(5/9)。不思議な世界の中に入った合図である一文の表現の工夫とその効果を、それまでの学習を生かし自分で考えた後、ペアで考えを共有し最後に全体で確かめた(6/9)。

【広げる】では、1枚目から6枚目までの戸の言葉の意味について、グループで話し合った。その後、自分が納得したグループの友達の意見を全体で紹介し合い共有することで、戸の言葉の意味について考えを広げたり深めたりした(3/9)。同じような表現の工夫を選び、解説文を書いた児童を意図的にグループ分けし、解説文の内容を伝え合わせた。その後、生活班に戻り、解説文の共通点や相違点を伝え合わせ、異なる考えや新たな気付きに触れさせるようにした(8/9)。

3 話し合う活動を充実させるための工夫

(1) 単元の構成と学習過程の工夫

単元を通して、本文の表現の工夫とその効果に着目した学習展開とした。単元の前半では、全体での物語の読みを広げ深めるために、ペアやグループといった話し合う活動を配置した。後半では、深めた読みを実感できるように、表現の工夫とその効果について解説する文章を書き、その解説する文章を受けての感想文を書くという活動を段階的に配置した。

(2) 学習課題・発問の工夫

単元を通して、表現の工夫から、人物像や物語の全体像を把握しながら物語を読んでいく力が身に付くような課題を設定した。

(3) 話し合うために必要な言葉の提示

見本を提示し、考えの伝え合い方や物語の読み方、考えのまとめ方を確認した。教師の言葉掛けを吟味した。

4 単元の構成

第一次 「表現の工夫について考えて解説文を書こう」という学習課題を理解し、単元の見通しを持つ（第1時）。

- ・ 「注文の多い料理店」を表現の工夫に着目して読むことを意識させ、見付けた表現の工夫について解説文を書くことを理解させる。

第二次 表現の工夫から、紳士たちの人物像や物語の全体像を把握する（第2～6時）。

- ・ 反復や比喩表現、擬態語から、戸の言葉の解釈の間違いに気付いた紳士たちの気持ちを想像させる（第2時）。
- ・ 戸の言葉の意味を遡って吟味していき、戸の言葉の仕掛けに気付かせる（第3時）。
- ・ 不思議な世界に入り込む前の叙述から2人の紳士の性格や考え方を想像し、戸の言葉に振り回されたり戸の言葉を都合のよいように解釈したりしてきた様子と統合し、紳士の人物像を捉えさせる（第4時）。
- ・ 比喩表現や紳士の言動から物語全体を通した紳士の変化を捉え、人物像について理解を深めさせる（第5時）。
- ・ 不思議な世界への入り口と出口となる一文から物語の構成を捉え、その一文に使われている反復表現や擬音語の効果を考えさせる（第6時）。

第三次 表現の工夫とその効果を文章にまとめ、読みを深める（第7～9時）。

- ・ 自分が一番説明したいと考えた表現の工夫について解説文にまとめさせる（第7時）。
- ・ それぞれの解説文について紹介し合い、自分の考えを広げ、解説する文を修正したり加筆したりさせる（第8時）。
- ・ 宮沢賢治の生き方や他の作品に触れ、再度、広げ深めた「注文の多い料理店」についての自分の考えを文章にまとめさせる（第9時）。

5 中心となる本時の授業計画（第3時）

表6 中心となる本時の学習活動と教師の支援及び指導上の留意点

	学習活動	教師の支援及び指導上の留意点
導入	○「戸の言葉の表現の工夫について理解を深めよう」という学習課題を理解する。	・ 6枚目の戸の裏の言葉で紳士たちがようやく自分たちの解釈の間違いに気付いたことを確認する。
展開	○1～6枚目までの戸の言葉の中で、自分が違和感を覚えた戸の言葉とその理由をまとめ、グループで紹介し合う。 ○グループの話し合いで納得できた友達の意見を全体で紹介し、戸の言葉の仕掛けに気付く。	・ 戸の言葉に対する紳士の解釈を本文から見付け、山猫軒側の意図を想像させることで、言葉に込められた意味に気付かせ、物語の全体像の把握につなげていく。 ・ 意図的指名をし、6枚目から遡って戸の言葉を取り上げるようにする。そうすることで、実は1枚目の戸の言葉から仕掛けがあることに気付かせるようにする。
終末	○戸の言葉の表現の効果について自分の言葉でまとめる。	・ 戸の言葉には、言葉自体に2つの意味がある場合と、山猫軒側の思惑に対して紳士が都合の良い解釈をした言葉があったことを押さえる。

6 視点1 単元の構成と学習過程の工夫（補助資料10）

教材「注文の多い料理店」

表7 平成29年度実践時と本実践における単元の構成の比較

時	平成29年度実践時の学習活動	本実践における学習活動
1	単元の見通しを持ち、解説文を書くという学習課題を確かめる。初発の感想を交流する。	単元の見通しを持ち、解説文を書くことを理解し、見付けた <u>表現の工夫</u> などについて伝え合う。【交流】
2	「現実の世界」と「不思議な世界」を確かめ、構成を捉える。	2人の紳士が間違いに気付いた <u>戸の言葉</u> が持つ意味を理解する。【まとめる】 紳士の心情を <u>表現の工夫</u> から想像する。
3	物語の <u>叙述を手掛かり</u> に、2人の紳士の人物像を読み取る。	自分が異変に気付いた <u>戸の言葉</u> について説明する。【広げる】
4	<u>戸の言葉</u> の意味と紳士たちの解釈、本当の意味の関係を捉える。	紳士の性格や考え方を <u>叙述を手掛かり</u> に想像し、総合して人物像を捉える。【問題解決】
5 6	<u>戸の言葉</u> に気をつけて物語を読み、紳士たちの気持ちの変化を読み取る。 物語全体を通した紳士たちの変化を読み取る。	<u>叙述から</u> 2人の紳士の変わったことと変わらなかったことに気付く。【まとめる】 物語の構成を捉え、 <u>反復表現の効果</u> を考える。【問題解決】
7 8 9	物語のよさを見付ける。 解説文を書く。 解説文を読み合う。	表現の工夫を解説文にまとめる。【まとめる】 解説文を読み合う。感想文を書く。【広げる】 感想文を読み合う。作者の考えや他の作品に触れる。【交流】

実際、行ってみて、第8時の解説文を読み合う際は、読み合い話し合ったことを生活班で伝えた後に加筆修正の時間を取り、自分の解説文を練り直したことから、感想文を書くには至らなかった。そこで、第9時に作者の考えや他の作品に触れた後に、感想文を書いた。そのため、感想文を読み合う時間は取れなかった。書いた感想文は、複数枚図書室前の宮沢賢治コーナーに掲示させていただいた。

7 授業実践③の発話記録（補助資料11）

前時で紳士たちが自分たちにとって都合のよい解釈をしていたことに気付いた6枚目の戸の裏の言葉、紳士たちが恐怖に慄いた7枚目の戸の言葉について学習した。本時では、紳士たちが気付いた6枚目の戸の裏までの戸の言葉に注目させるために、1枚目から6枚目の戸の言葉の中で、自分が違和感を持った戸の言葉について友達と話し合わせた。話し合う前に「わたしが気付いたのは（ ）枚目のおもて・うら。理由は（ ）から。しんしは（ ）と思っていたけど、本当は（ ）。」という型を提示し、ノートに自分の考えを書かせてから話し合わせた。時間は4分である。

段階	C 1	C 2	C 3	C 4
自分の考えを発表	5枚目です。理由はひびが切れるからと言ってそこまでしなくてよいと思ったからです。紳士はひびが切れないためにもっともつと思っただけど、本当は料理にするための味付けだったから。	私が気付いたのは2枚目の表です。【当軒は注文の多い料理店ですから】と書いてあったので、ここでこの戸は紳士の方へ注文をしているのかと思ったからです。紳士はなかなか流行っているんだ、こんな山の中で、と思っていたけど、本当は入ってきた人に注文している店だったことです。	つぼのクリームを手足に塗って、ってところに、牛乳クリームってあったじゃん。それってなんか牛乳クリームって本当はそういうのじゃないじゃん。だからなんか、なんて言えば、うーん、それでなんか牛乳クリームってほとんど無いから、あの、食べられると思ったの。	ぼくが気付いたのは、1枚目の裏で理由は、太ったおかたやわかいおかたは大かんげいです、というので、太っている人若い人を望んでいると思ったから。ってことはさ、あんまりないじゃん。普通みんな、色々な人が来るじゃん。その中でこれだけを望んでいるっていうのは、おかしいと思ったから。あとは、紳士はひびを切らすからクリームを塗ると思っていたけど、本当はそれは味付けのためのクリームってこと。
戸の言葉について話し合い	えー？ 1枚目って一番最初で怪しくて、2枚目でもう気付いたんだ。 うーん。	確かに。 うん。	わたしはまだそこしか気づいてない、理由と。「しんしは」と「本当は」はまだ書いてない。 普通にかわいそうかも。 注文っていうよりお願い。お願いが多いってやれば。	だってさ、太いおかたや若いおかたを望んでいるっておかしくない？失礼だよ。 もし、おじいちゃん来たらどうすんの？ かわいそう。紳士は太っているおかたか若いおかたってことだね。 もう俺、1枚のところで分かった。 1枚目の戸の【どなたもどうかお入りください。決してごえんりよはありません。】ってなんか怪しい。 注文の多い料理店って自分から言うのっておかしくない？ おかしいよね。 【どうかそこはご承知ください】無理無理。【注文はずいぶん多いでしょうが】っていうかもう注文されている？ お願いの方の注文？ 【注文はずいぶん多いでしょうが、いちいちこらえてください。】こらえてください、ってやらせるってことでしょ。
	うん。 ここまでで4分			

図6 小学5年国語科「表現の工夫について考えよう」発話記録（抜粋）